

令和 8 年 第 1 回 議会定例会

一 般 質 問

1. 9 番 軍司 俊紀

2. 1 番 松尾 榮子

3. 2 番 山田 喜代子

4. 4 番 三浦 容子

5. 3 番 増田 葉子

印西地区環境整備事業組合議会

議席 9 番 軍司 俊紀 議員

【質問 1】新クリーンセンター稼働に向けた「広域運営の最適化」と「資源循環の質的向上」について

令和 10 年度の次期中間処理施設稼働まで 2 年余りとなり、現在は運営体制の細部を固める重要な時期にある。

本組合は、印西市、白井市、栄町の 2 市 1 町が連携する広域行政のモデルだと考えるが、新施設の稼働を単なるハードの更新に留めず、社会情勢の変化に対応した「運用の高度化」を図るべきであるとする。

特に、物流・人手不足問題の常態化や、既に取り組んでいるリユース施策の「次なるステップ」について、以下の 4 点から組合の見解を問う。

(1) 収集運搬の効率化と「行政境界を越えた」広域最適化について

すでに「2024 年問題」を経て、収集運搬コストの高騰と人員確保の困難さは顕在化しているのではないか。

- ① 2 市 1 町の広域ルート再設計 現在、収集ルートは各市町の行政区分に依存しているように考えるが、新施設への搬入を前提とした場合、2 市 1 町の境界を跨いだ「広域最適ルート」へ再編することで、走行時間の短縮と燃料費抑制が可能ではないか。新施設稼働に合わせた「収集 DX (AI 配車等)」の導入は検討されているのか。

(2) リユース施策の「点」から「面」への展開について

印西市では既に民間プラットフォーム「おいくら」を導入し、一定の成果を上げていると思う。しかし、オンラインでのマッチングが難しい大型品や、搬入後に「まだ使える」と判明する品への対応は依然として課題だと感じる。

① 搬入拠点における「物理的リユース」の強化

新施設において、自己搬入された粗大ごみの中から再利用可能なものをその場でピックアップし、展示・譲渡、あるいは専門業者へ引き渡す「物理的なリユース機能」を考えていくことはできないか。その具体策を問う。

(3) 事業系ごみの「分別の徹底」と処理原価の適正化について

組合の最終処分場には余裕があるように思うが、焼却炉の安定稼働と処理コスト抑制のためには、事業系ごみの減量は避けて通れない。

- ① 排出事業者への「資源化」指導 大規模店舗や事業所から搬入されるごみに、資源化可能な紙類・プラスチックが混入している実態はないか。

新施設稼働に向け、搬入規制の強化や、排出事業者に対する「資源化ルートの開拓」を促す直接的な指導体制を構築すべきではないか。

(4) 「生ごみ・剪定枝」の資源化検討による焼却負荷の軽減について

新施設を健全に長く使い続けるためには、焼却炉に負担をかける「水分の多い生ごみ」や「大量の剪定枝」の扱いを検討する必要がある。

- ① 段階的な資源化ロードマップ 全量焼却から脱却し、まずは剪定枝や、多量排出事業者からの生ごみなど、対象を絞った資源化（バイオマス利用）の可能性について、新施設稼働後の「印西地区ごみ処理基本計画」にどう反映させていく考えか。

【質問2】次期中間処理施設稼働後の現クリーンセンターはどうか。

印西地区環境整備事業組合では、令和10年度に次期中間処理施設を稼働させ、現在稼働中のクリーンセンターは停止する。

新施設稼働後の現クリーンセンターの解体・撤去、土地の処分までの流れについて、特に以下の4点について、確認する。

- (1) 「解体費用の積み立て」についての考え方
- (2) 「交付金」獲得への戦略
- (3) 「地下埋設物」の処理方針
- (4) 「負の遺産」化の防止

【質問3】地域振興事業である「地元還元施設」の現状と組合への要望である「プールの存続」について

前回の組合議会（10月22日）で、地域振興策の今後について問うたところ、「地域振興施設の整備内容に関する吉田区との最終調整については、今年中に調整を完了させたいと考えている」旨の回答があり、さらに再質問で「核となる集客施設はいつ決定し、公表に至るのか。」を確認したところ、「吉田区との最終調整については、12月下旬に調整を完了させたいと考えている。調整後は、速やかに計画内容を公表する予定です。」とあったが、1月20日現在公表されていない。

- (1) 現状と今後について
- (2) 住民から引き続き、要望のある「温水プール」の存続・（新規）設置は検討されていないのか。

議席 1 番 松尾 榮子 議員

【質問 1】 次期中間処理施設整備事業 地域振興施設について

- (1) 土木基本設計、実施設計の公募型プロポーザル受託候補者の選定結果について、提案者 A・提案者 B の評価結果について伺う。
- (2) 地域振興策について、地元吉田区との協議の進捗状況と内容について伺う。

【質問 2】 印西クリーンセンターごみ中間処理事業について

- (1) 粗大ごみ・不燃ごみの処理ラインにおいて、令和 6 年末、リチウムイオン電池の混入による火災事故が発生し、組合では手選別で除去作業を実施しているとのことであった。この問題は、次期施設においても課題となってくる。同様の火災事故が全国でも発生していることを受けて、リチウム電池を発見する選別機があるということを、先般、テレビニュースで報道していた。これについて、導入検討の考えはないか伺う。
- (2) プラスチックごみが可燃物から再資源化ごみになる変更があったが、可燃ごみの量、プラスチックごみの量に変化はあるか。

【質問 3】 平岡自然公園事業について

- (1) 芝墓所の追加区画整備工事の進捗状況について伺う。
- (2) 令和 7 年 10 月定例会の決算審査において、印西斎場の霊安室の保冷库の状況について質問させていただいたが、年々葬儀の件数が増え、かつ猛暑日が増える中、増設検討の考えはないか、伺う。

議席２番 山田 喜代子 議員

【質問１】２０２６年度の職員体制について

（１）業務量に対して十分な配置となっているか。

（２）不燃ゴミの分別作業は７人体制とのことだが十分な人数か。その後の不燃ゴミ量の変化はどうか。

【質問２】粗大ゴミの仮置場の屋根の設置状況はどうか。

【質問３】リチウムイオン電池の安全な回収について現状はどうか。

議席 4 番 三浦 容子 議員

【質問 1】印西クリーンセンターの熱供給について

ゴミ処理で、発生した蒸気は、株式会社千葉ニュータウンセンター熱供給事業本部を経由して周辺の 12 事業所の冷暖房で利用されている。

その量は、それらの事業社の冷暖房用熱源の約 40%を担っている。

(1) 中間処理施設の移転により、この事業も終了することになるが、各事業者への連絡と調整について伺う。

【質問 2】印西クリーンセンターの環境負荷に対する取り組みについて

(1) 事業系ごみの展開検査について伺う。

(2) 事業系ごみ多量排出者への訪問指導等について伺う。

議席３番 増田 葉子 議員

【質問１】整備工事の現状と移転スケジュールについて

早いもので、次期中間処理施設の試験稼働まで、今議会を入れて３回となりました。整備工事の状況は予定通りに進んでいるのか、様々な点で具体化してきていることと思いますので、改めて確認させていただきます。

- （１）アクセス道路等の整備の進捗は予定通りか。
- （２）地域振興施設を運営する株式会社よしだの準備状況はどうか。また、施設は令和 10 年 4 月の供用開始で変更はないか。
- （３）次期施設へのごみの搬入はいつから始めるのか。

【質問２】現施設での直接搬入を検討できないか

令和 5 年第 2 回定例会で質問させていただいた直接搬入について再度伺いたいと思います。質問後ご検討いただき、直接搬入の関係条例を議会提出する直前に火災事故が起き、当面先送りせざるを得なかったと認識しています。粗大ごみ、不燃ごみは難しいだろうことは理解できますが、可燃ごみの直接搬入は検討できないでしょうか。

- （１）その後、直接搬入の検討はどうなっているか。
- （２）次期施設では直接搬入をどのように扱う予定か。